



試すっ子

学校教育目標「試す人になろう」 No.18

ヤマアラシの距離

校長 中野 主税

今の子供は、昔に比べて子供同士の人間関係づくりが上手いかず、悩むことが多くなっていると言われています。昔の感覚で言えば、「ちょっとしたこと」で悩む子供が増えているようです。「友達に無視されているのではないか」「自分の悪口を言われているようだ」「みんなの視線が気になる」などといったものです。

では、昔の子供たちはそのような思いや経験がなかったのでしょうか。

そんなはずはなく、昔も結構そんな思いや経験はしていたはずです。それではなぜ、現代のような社会問題にまでなるような状況にならなかったのでしょうか。それは、そのことを乗り越えることができるような経験を多く積む機会があったからではないのでしょうか。

子供の人間関係づくりを「ヤマアラシの距離」という興味ある言葉で説明している方がいました。ヤマアラシは、御承知の通り、鋭いトゲを体中に持っている動物です。そのヤマアラシが2匹いて、寒さをしのぐようと寄り添おうとしています。何度も何度も繰り返し寄り添っては突っ突き合いながら、やがてお互いのトゲとトゲの間をうまく調整し、その距離を巧みに計る術を身に付け、お互いの体温で寒さをしのぐことができるようになるという例えを基にしたお話です。

子供の人間関係においても、群れて遊ぶ中でトゲとトゲで突っ突き合いながら、痛い思いを繰り返し体験しながら、お互いに傷つけ合わない距離感や対応力を身に付けていくのではないのでしょうか。昔は、このような体験をする機会や場が多くあったということです。

現代の子供たちを取り巻く環境は、このような視点から考えると決して望ましい環境とはいえません。都市化・室内遊び（ゲーム中心の個人的な遊び）・スマホを使ったメールでの人間関係など、直接子供同士顔を突き合わせ、寄り添いながらつくり出す関係づくりを阻害する要因にあふれています。

「昔はよかった」といって、何もしないのではなく、大人としてどのように対応していくのかを考え、できることから子供たちのために取り組んでいきたいと思えます。

子供が友達同士のことで悩んでいるのを見たら、「仲間外れにされている」「無視されている」といった子供の思いに寄り添い、学校と御家庭で情報交換を密にしながら子供自身に乗り越えていく力が身に付くように、両方で子供を支え解決していきたいと思えます。

もうすぐ11月、実りの秋を子供たちが健やかに晴れやかに過ごしていけるように、学校の応援団である保護者や地域のみなさまと共に、試すっ子の成長を見守り、応援していきたいと思えます。これからもどうかよろしくお願いします。



【70演奏家によるコンサート】